

アメリカ：イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校 **Intensive English Institute** 夏期英語研修プログラム
ム（追加募集：6月22日締め切り）

2012年9月1日（または2日）出発、9月30日帰国
催行最少人数10人、最大18人まで。

イリノイ大学アーバナ・シャンペーン（University of Illinois at Urbana Champaign）は、22人ものノーベル賞受賞者を輩出した世界屈指の研究大学です。1867年、アメリカ中西部のイリノイ州の国有地付与フラッグシップ大学として創立し、農学、自然科学、工学をはじめ、人文・社会科学などで常に先端を走り、アメリカの科学、技術、現代社会をリードする人材を輩出してきました。最新の教育・研究施設において、約32,000人の学部学生、約10,000人以上の大学院・専門職大学院生が、約3,000人の教員のもとに学習・研究に励んでいます。進んだ研究や教育のために、115か国から8000人以上の留学生も勉強しています。

この **Intensive English Institute** は、アメリカの高等教育レベル英語プログラムの質保証認証団体 **American Association of Intensive English Programs** の認証を受けていることからわかるように、質の高い英語教育を行っています。勿論、英語を母国語としない学生に対する英語教授法を専門とする教員によって授業が行われ、イリノイ大学内部、世界各地からも高い信頼と評価を得ています。

新潟大学のプログラムでは、アカデミックレベルで通用する読み、書き、話すという基本的な技量を強化しながら、最終的には各々の学生が、自分の専門領域の関心や研究テーマをプレゼンテーションできるようになることを目標にしています。それぞれの授業は、この最終目的にあうような英語能力の訓練に焦点を当てているわけです。その他、イリノイ大学で日本語を学習している学生や、シカゴ、あるいはセントルイスへの小旅行を通じてアメリカの文化や歴史に触れ、地域の人々と交流できる機会をプログラム中に組んでいます。意欲のある学生には、自分の関心領域の研究者や学生と知り合い、将来の留学や、世界を舞台に活躍する一流の人々お互いに切磋琢磨し合える人脈を築くコミュニケーション能力や社交能力を試し、鍛える場にもなるでしょう。アメリカの大学教育・研究の実力の凄さを、体感してください。尚、英語プログラムでも、イリノイ・プログラムでは宿題、課題は多く出ますので、きちんと履修・提出することが参加する最低条件です。

研修には、9月1日（2日になる場合もあり）に出発し、9月30日に帰国する予定です。授業料は、最低催行人数の10人の場合、一人当たり1,300ドルです。この4週間の間の宿舍の形態及びその費用は、まだ決まっていますが、大学、または大学が斡旋するアパート、あるいは寮となります。食費は、現地の物価は比較的安いので、自炊をする限り、あまり係りません。買う食材によりますが、1週間50ドル位です。普通に生活している限り、どんなに高くても週100ドルを超えることはまずないと思います。ただし、外食をする場合は、キャンパス内であってもそれなりの出費になりますから、気を付けてください。この他に、キャンパス施設利用費、飛行機代、交通費、海外旅行保険料（新潟大学自然科学研究科が参加条件として定める最低保険保証基準あり）、格安レンタル携帯電話（必携：ただしSIMカード

の差し替えのみも可能です)、個人的な出費費用が自己負担となります。なお、週 20 時間以上の授業時間が組み込まれていますので、アメリカ入国に際しては学生ビサの取得が義務付けられます。ビサ取得のために、東京にあるアメリカ大使館に行き、領事面接を受けビサ発給の許可を得なければいけません。なお、合同渡航を希望する学生には、航空券を一緒に取るように手配します。

2012 年 2 月から 3 月までのこの学校の春期英語研修に参加した学生は、非常に充実した毎日を過ごしたようです。チャンスのある時に、是非、トライしてみてください。尚、来年の 2 月、3 月にも春期英語集中研修をイリノイ大学アーバナ・シャンペーン校で開催しますが、春期研修は自然科学研究科、理学部、工学部、農学部の学生合計 15 名に限定します。また、3 月に卒業を予定している学部生・大学院生は参加できません。夏期に参加してください。

イリノイ州アーバナ及びシャンペーンという町は、大学街であり、古き良き米国の雰囲気が残る、とても安全な街です。しかし、大学は色々な人が集まるところですから、それなりの防犯意識とリスク対処スキルは必要です。そのため、リスク管理などの事前指導を出発前に開催しますので、それは必ず受講してください。受講しない場合は、参加を取り消す場合もあります。また、出発前後に、国際センター及び自然科学研究科主催の TOEFL (ITP) を可能な限り受験することを強く推奨します。

また、希望者が募集枠を超えた場合には、エッセイ、普段の学業成績 GPA、インタビュー（面接）などによって選抜することがあります。理・工・農学部生、及び自然科学研究科大学院生は、4 単位取得可能ですが、研修成績や参加状況によっては不合格などの不利な扱いを受けることがあります。

参加費用について

授業料：1,300US ドル(但し最低催行人数 10 名参加の場合で、これに送金手数料が若干かかります。人数が増え 10 名を超えた場合、若干安くなります。)

渡航費用：約 192,000 日本円(合同渡航手配として、東京ーシカゴ間日本航空使用、シカゴーシャンペーン間アメリカン航空使用の場合です。個人で別経路・予定で渡航する場合は、この限りではありません。)

イリノイ大学交通パス・施設使用料：100US ドル

宿舍：NPO によるホーム・ステイ申込費用 180 ドル、2 食付で 1 か月 600 ドル

格安レンタル携帯電話：レンタル費用約 30US ドル (ミニマム・チャージなどの費用は発生しませんが、通話料金は別。アメリカ国内毎分 19~23 円、日本へ通話毎分 33~92 円ですのでお得です。)

この他、昼食や、成田空港までの旅行費用、及び学生 VISA 取得に係る費用、個人的出費は個人負担になります。

この他に、海外旅行保険加入を義務付けています。治療・救援費保障の部分に対して最低基準を設けていますので、購入前に相談してください。